



若者をつなぎ まちを盛り上げるツボ



本冊子は学生と福祉NPOのマッチング事例を元にノウハウをまとめたものです。
今年度は新型コロナウイルスの影響で例年通りの活動ができず、
オンライン中心にボランティア活動が展開されるなど、変化の1年でした。
そうした気づきも交え、若者とNPO等の地域団体が一緒になって活動していくための
ヒントをまとめたので、是非参考にいただければ嬉しいです。

地域の様々なところで若者と地域のコラボレーションは始まっています！



団地 活性

団地に学生が住み込み関わることで、
まち全体が明るくなった

NPO法人オールさこんやま (横浜市旭区)

オールさこんやまではコミュニティカフェの運営や地域イベントのサポートなどの活動に学生が関わっています。学生たちは参加に留まらず、独自の企画を提案・実現することで団地活性化にも一役かっています。一部の学生は団地に住み込み、生活をともにすることで、世代間のコミュニケーションも進み、住民同士の新たな交流も生まれてきたようです。



大人の価値観に触れることで学校では得られない刺激を受けています。関わることでまちが好きになった。
(横浜国立大学1年 落合さん)



学生が関わることで住民が元気づけられ活気が出てきた。いてくれるだけでいいという声も出ている。
(NPO法人オールさこんやま理事長 林さん)



商店街 連携

発信力のある商店街と学生がタッグを組む
誰にも優しいまちづくり

まち×学生プロジェクト「オレンジプロジェクト」(横浜市神奈川区)

「大学近隣の地域の人に役に立つボランティア活動をしたい!」という熱意をきっかけに「誰もが住みやすいまち」を目指し、六角橋商店街連合会とタッグを組み「認知症啓発活動」を開始した。今では、学生と商店街という枠を超え、地元企業や保育園・小学校・デイサービス・病院までまちにあるさまざまな人や団体がつながり、大きな「支え愛の輪」を形成している。



地域の方々と協力して行うプロジェクトを通じて、六角橋地域の人々の優しさに触れ、まちが大好きになりました!!
(神奈川大学大学院1年 樋口さん)



やさしい「想い」と熱い「志」をもった方々と出会うことができました。学生さん達と関わり年長者の私も成長することができました。
(六角橋商店街連合会会長 石原さん)



NPOの 活動活性

学生の参加で活動が活性！
継続することで学生が利用者に！

認定NPO法人びーのびーの (横浜市港北区)

親子で過ごす子育てひろばなどで小学生から大学生まで幅広い年齢の学生が活動しています。ボランティアやインターンとして活動の一端を担うだけでなく、親世代と学生がつながることで双方に様々な変化が生まれているようです。中には卒業後、子育て世代になり、利用者として戻ってきた元学生もいます。



元々団体の雰囲気を知っていたから、初めての子育てでも安心感を持って利用できました。孫のように可愛がってもらえる有難い子育て環境です。
(2013年インターン生 斎藤さん)



子育てひろばで赤ちゃんをだっこしたり、お母さん・お父さんと話したりした経験が将来自分の子どもを育てる時に安心感につながると嬉しいです。
(港北区地域子育て支援拠点副施設長 館さん)

学生の参加でまちが元気になる！

若者と共に活動することで、地域や活動が元気になった、そういった事例はたくさんありますが、具体的にはどんな効果があるのでしょうか。

これまで様々な事例から以下の3つにまとめてみました。是非参考にしてください！！

●若者の参加は人や組織をつなげる力になる

大人と子どもの中間の世代である学生が関わることで、子どもが参加しやすくなった、30代など若い世代が関わるようになったなどよく聞きます。多様な世代と関わりをもちやすいことが特徴のひとつといえるでしょう。



●若者の参加は活動の成長を促進する力になる

若者がボランティアに参加する理由の上位は「自己成長」や「他者への貢献」です。成長意欲や社会貢献意識の高い彼らの思いが、団体の活動とうまくマッチすれば、活動のさらなる発展に貢献することが期待できます。活動の活性化を望む団体にとって、若者は相性が良いと言えます。



●若者の参加は巻き込みの力になる

学生は勉強やアルバイト、サークル活動などに忙しい日々を過ごしていますし、社会人はライフスタイルや価値観も多様化しています。そんな彼らに活動への参加を促すことは、難しい課題になっています。逆に言えば、若者を巻き込むことができれば、その経験は他の世代へのアプローチにも応用できます。



●アクションポート横浜ではそんな地域と学生のコラボレーションを応援しています！

アクションポート横浜では、これまでNPOインターンシッププログラムや横浜アクションアワードなどを通じて若者が地域で活躍できる場作りを支援してきました。

若者と地域をつなぐノウハウや実践例などを豊富に集めていますので、ご相談や研修のご依頼など、お待ちしております。



相談してみる

実際の若者受入やノウハウなどを多彩なメンバーに相談できます。



勉強会を開いてみる

若者との連携を探るために地域や団体で勉強会を開催する相談も受け付けています。



ノウハウ集を販売中

若者と地域をつなぐノウハウをまとめて冊子を作りました。是非参考にしてください！



NPO法人アクションポート横浜
<http://actionport-yokohama.org/>

アクションポート

検索

若者の参加にはコーディネーターが大事

若者を受け入れる上では、団体と若者をつなぎ、双方の思いをマッチングするコーディネーターという役割が大事です。議論の中で出てきた学生の参加のステップとコーディネーターの関わりをまとめました。これは一例で必ずしもこのステップが順番になるものではなく、あくまで一例と関わりをまとめたもので、皆さんの活動のヒントとして活用いただければと思います。ステップに応じてコーディネーターは様々な役割が求められます。



受入の準備

<ステップ1> 若者へのアプローチを考える

👉 P5

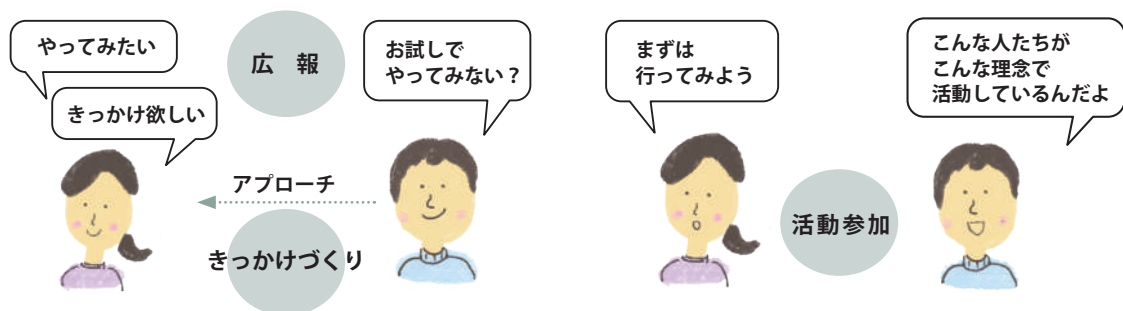
<ステップ2> 受入れ計画・プログラムを考える

👉 P6

受入する

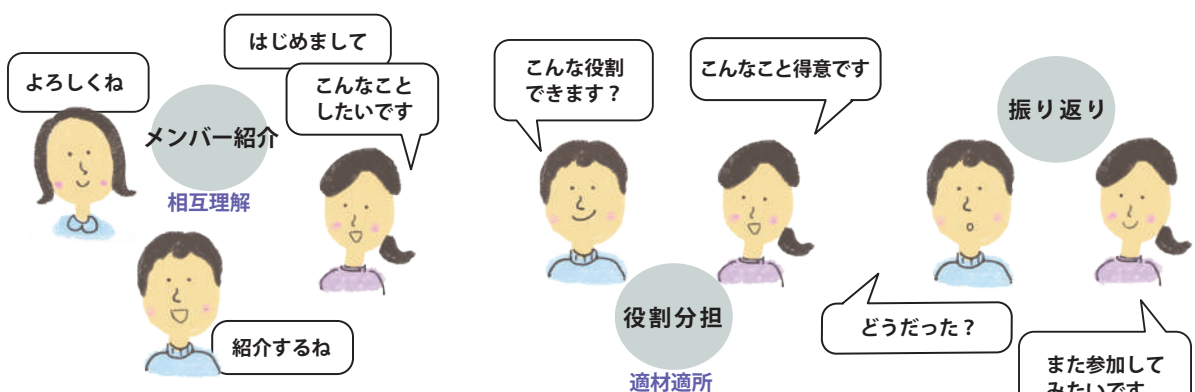
<ステップ3> 若者を呼び込む

👉 P8



<ステップ4> プログラムを運営する

👉 P9



継続

<ステップ5> プログラムの継続を支援する

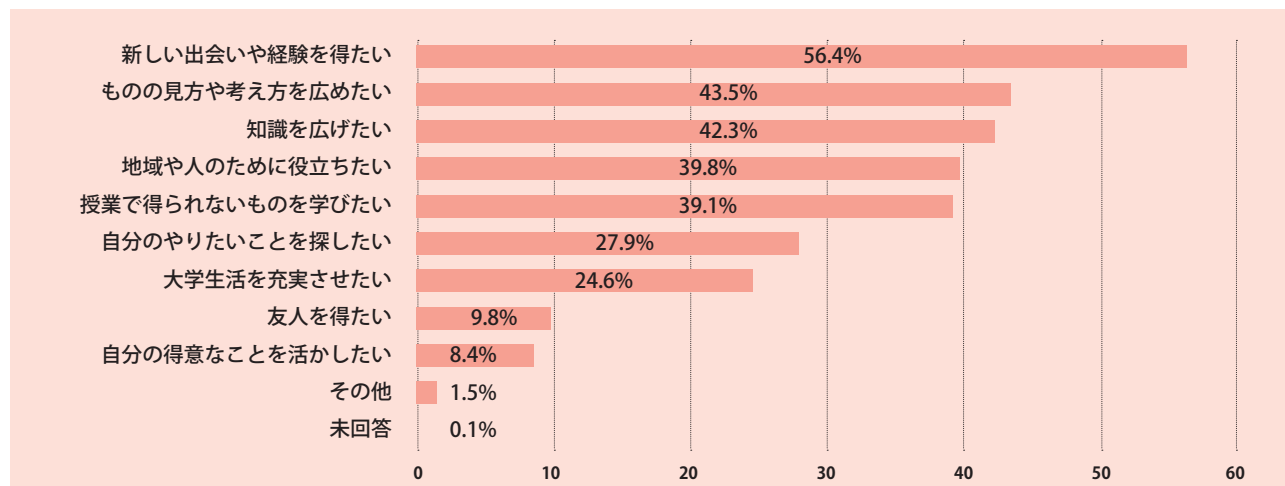
👉 P11



<ステップ1> 若者へのアプローチを考える

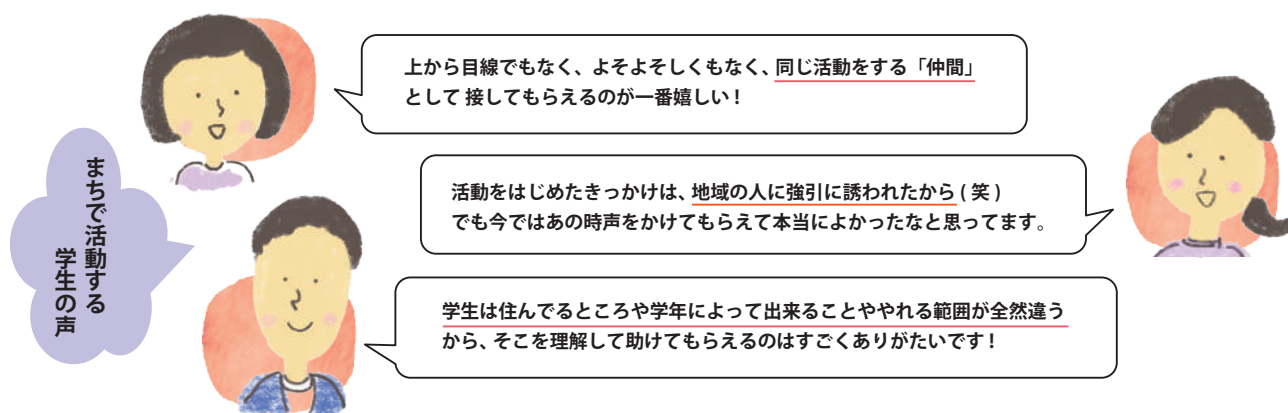
「若者」と一口に言ってもNPOや地域活動に対する考えは人それぞれ。学校や授業、学年、住居、経済状況、アルバイトなどによっても学生の抱える状況や想いはさまざまです。このページでは、学生が活動を「やってみたい!」と思うきっかけ作りや動機づけについて考えます。

ボランティア活動に参加したい理由



明治学院大学ボランティアセンター 2019年度新入生ボランティア活動アンケートより

若者はボランティア活動に対し、出会い・学び・経験など自己成長の機会を多く求めていることが分かります。活動の趣旨や目的を学生に伝えることももちろん大切ですが、活動を通して若者が得られそうなことや身につけられる力をアピールすることが大切です。



ともに活動する若者に、どんな思いで活動しているのか・どんなことに関心があるのか等、直接聞いてみるのも若者とつながるための近道です。お互いにコミュニケーションを取りながら一緒に過ごす時間を大切にしましょう。

地域で楽しく活動が続けるコツ(へりぼーと)



へりぼーとは町田市相原町にて、地域団体、NPO団体、町内会などと一緒に地域の居場所作りやにぎわい作りを行っている学生団体です。

私たちが地域の方と楽しく活動し続けるために意識しているのは、

- ①多世代が一緒にいるだけで活動の幅が広がること、
- ②地域の人や学生が活動に参加しやすい方法を何通りも考えること、
- ③「誰のため」「何のため」に活動をしているのかを共通認識として持つことの3つです。

まずは一緒にやってみる、迷ったら相談し合うなど普段の細やかなやり取りもとても大切にしています。

<ステップ2> 受け入れ計画・プログラムを考える

若者視点を合わせて創るプログラム作り

1) プログラムの名称を考えよう!

活動内容や目的はわかりやすく、<知識“ゼロ”でも伝わる言葉>で書かれているか考えてみましょう。

2) 活動内容・活動対象

「誰に」対して「どんなこと」を行うのかを具体的に<若者に>イメージを伝えましょう。

3) 活動場所・期間(日時・曜日・頻度)

<若者の参加しやすい>時間(夜間帯)・曜日(金・土曜日)など会場への交通機関などを確認しましょう。
例) 金曜日の夜間帯(19:00~21:00)や土曜日の午後など...

4) 必要な経費

募集や広報に必要な経費・保険料等もとても重要ですが、
<学生の自己負担額(持ち出し)>が多くなっていないかなども併せて確認しましょう。

5) 連絡体制

プログラムの指揮系統を決め、内部スタッフと共有しましょう。
併せて<学生との連絡手段>や急に参加できなくなった際の<代替え案>を検討しておきましょう。



やりがち・ありがちな失敗談



学生

学生さん、若い人さんって呼ばれる...(名前を覚えてもらえない)
学生なら誰でもいいのかな?

名前を覚えよう・呼ぼう

担当の方は優しいけど...それ以外の職員や地域の方からは視線が、
(あのんだれ?なんでいるの?)といった歓迎されていないように感じる...

団体内で合意を取ろう



コーディネーター

若い世代がないから、お祭りのテントを張ってくれる若い学生いない?」と
地域の方から相談があったけど...

それって学生じゃないとダメですか?



学生

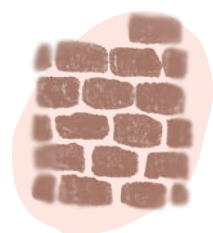
Accent 若者の“本気”を引き出す

町を歩いていると、レンガを積んでいる人がいました。
「何をしているんですか?」と尋ねると「棟梁に言われてレンガを積んでるんだよ」と答えました。
しばらく歩くと、またレンガを積んでいる人がいます。
「何をしているんですか?」と尋ねると「歴史に残る大聖堂の入口付近の壁を造っているんですよ」と答えました。

◎一緒に活動する学生にはどう答えてほしいですか?(理解度)

「棟梁に言われてレンガを積む」⇒「ただ言われたからやっている」

「歴史に残る大聖堂の壁を造る」⇒「将来どうなるかその為に何が必要か理解している」



事例：まち×学生プロジェクト

まち×学生プロジェクトでは、「卒業後も戻ってきたい、住み続けたいまち」を目指して、地域住民と学生が定期的集まる定例会やイベント等を通して、長く付き合える(参加できる)機会を創出しています。

<複数日体験のポイント>

- ・学生の「やりたい!」を応援する
- ・計画的に中長期的な視点で一緒に物事を作り上げることができる
- ・定期的に関わる機会があることで、世代を越えた「仲間意識」が芽生える



<活動例：キャンドルナイトでの体験>



オンラインMtg(複数回)
企画概要や学生の「やってみたい!」を聞きながら役割決め



キャンドルナイト(当日)
実行委員の努力が形になる日



キャンドルナイト(当日)
参加者から学生へのお礼のメッセージを集める



学生の企画に対する想いや努力をメディアを使って客観的に地域に伝える!

事例：アクションポート横浜

アクションポート横浜では1日ボランティア体験の場づくりをおすすめしています。学生をはじめとした若者が、ハードルを低く、お試しの関われる場があることで、安心して参加できるようになるからです。

<1日体験のポイント>

- ・気軽に参加できる(お試し参加、友達と参加がしやすい)
- ・NPOの理念や活動がわかる
- ・参加者と団体メンバーの関係性が築ける



<活動例：横浜サンタプロジェクトでの体験>



自己紹介とオリエンからスタート



活動内容はイベントの受付を手伝ってもらいました



活動後の振り返り・集合写真を撮って活動をきちんと記録に残します



お疲れ様と感謝を伝える場を。打ち上げも大事

<ステップ3> 若者を呼び込む

学生を呼び込むポイントは参加への「ハードルの低さ」と「安心感」！

どんなことを一緒にやりたいか、若い人に何を期待しているか、気持ちが伝わるチラシを作りましょう。

Point 1

タイトルはただの「ボランティア募集」ではなくわかりやすい言葉で目的やゴールが見えやすい魅力的なものにしましょう。

学生
ボランティア
募集中！

夏祭りを一緒に 盛り上げよう

〇〇地区では、年に1度の夏祭りに非常に力を入れています。
当日はおみこし、盆踊り、屋台のほか今年は新しい企画も用意しています。
企画段階からもしくは当日、一緒に活動してくれる方を募集しています！

日時

2020年8月23日(土) 17:00~21:00

*夏祭りの実行委員会は7/14(土)、7/28(土)、8/8(土)の計3回

場所

〇〇地区ふれあい広場

*△△駅より徒歩5分

内容

準備段階→実行委員会への参加、新イベントの企画、前日準備など
本番当日→屋台のお手伝い、おみこしかつぎ、受付など

企画段階からの参加・当日参加、どちらも大歓迎です！

<申込方法>

右のQRコードで必要事項記入もしくは
natsumatu12020@gmail.com まで名前・住所・参加希望内容を
記入の上ご連絡ください！



Point 2

学生が参加しやすい日時になっているかどうかもう一度確認を！
試験期間や帰省時期、学校行事などの日程と被っていませんか？

Point 3

開催場所のアクセスのしやすさも重要です。
学校から、駅からのなどの距離感を把握しておきましょう。

Point 4

参加内容はできるだけ具体的に書いた方が特に初めて参加する学生の安心感につながります。
また、関わる方法を何通りか用意することで参加してみようと思う学生が増えます。

Point 5

参加申込や連絡手段ははじめはメールやGoogleフォームなど学生が気軽に申込みしやすいツールを使うことをおすすめします。もちろん関係性が出来てきたら、SNSや電話等お互いが使いやすいものでOKです。

他にもたくさん！自分たちにぴったりの方法でアピールしましょう！

大学のボランティアセンターや地域連携室などにお知らせする

昼食付きなど特典をつける

SNSを使って広報してみる

昨年の様子が分かる写真を入れる

ゼミやサークルに声をかける

口コミで広めてもらう

大学の後輩を紹介してもらう

<ステップ4> プログラムを運営する

1 オリエンテーション (世代を越えて・学生同士)

皆さんも知らない人の集まりに初めて参加する時、不安や期待でドキドキした経験はありませんか？
今後、一緒に活動する仲間の事を“お互い”に「知る」ことは大切な要素です。
(学生の「関心事」「特技」等を知り共通の話題を見つけると共に、活動団体の「概要」「活動内容(注意事項)」等、団体についても知ってもらう絶好の機会です。

とはいっても…「学生となにを話していいか解らない」なんて声を聞かれます。

【こんな手法で“手軽に”交流】「すごろくトーク」

まち×学生プロジェクトでは、自治会役員と学生が“気軽に”会話できるようにと昔遊びの「すごろく」を活用し、グループワークに適したオリジナルルールで“お互い”を「知る」取組みを行っています。



2 ミーティング (打合せ) や役割決め

ミーティング(打合せ)の際に、学生が参画しやすい「雰囲気づくり」が大切です。

◎ミーティングは学生が「司会・進行」を行う

◎複数人の打合せ前には、簡単なアイスブレイクで全員一言発言してから本題へ等…

期限や決めるべきこともあります。時には、学生の“ペースに合わせる”事も大切な要素です。

とはいっても…「積極的な学生が少なくて…」なんて声を聞かれます。

【こんな手法で“手軽に”参画】「コミュニケーションカード」

へりぽーとでは、地域で初対面のメンバーがいても多世代が集まる場でも会議や打ち合わせ中のコミュニケーションが円滑に進むようにカードを使って「話しやすい」雰囲気作りを行っています。



3 当日の運営・コミュニケーション

当日は、イベント時間などは「(当日の)時間はあっという間！」

ここまで準備を共にしてきた学生ならそれぞれに「企画を成功させよう」と考えていると思います。

ここでは「大丈夫!」「できるよ!」「楽しもうね!」等、コミュニケーションを取る事で学生の笑顔を引き出します。

(また段取りなどに抜けが無いかなどの確認のコミュニケーションも大切です。)

4 活動のフォロー・振り返り

活動のフォローは、「次に繋がる反省」が鉄則!

そして、「すごくよかった!」と感ずることは、口に出しましょう!

「(お・か・た・い)反省会だけでは勿体ない!」

【こんな手法で“気持ちをつなぐ”】「お疲れさま会」

イベント後や物事の節目に“打ち上げ”は定番ですが、「若い者は若いもので…」など、別々に実施するなんて話も聞きます。

「世代を越えて“お互い”を労う時間を創る」

学生と長く付き合う、ヒントがココにあります。

(時には、学生の胃袋を押さえる!そんな手法も有効です)



事例：NPO でのインターンシップ活動

インターンシップと聞くと学生が就職活動の際に企業で活動するように思われますが、NPOをはじめとした市民活動団体へのインターンシップも増えています。横浜では福祉NPOをはじめ、子育て、環境、国際協力、文化、まちづくりなど多様なNPOで受入れており、インターン生として学生が活躍しています。



<受入事例>

短期インターンシップ 10日程度
…10日間で現場でのボランティアやイベント運営などを体験
長期インターンシップ 3-6ヶ月程度
…数ヶ月かけてプロジェクトを担当するなど実践型の活動を体験

※詳細はアクションポート横浜が運営しているNPOインターンシップのサイトを参考にしてください。

<http://intern.yokohama/>

事例：障がい児の夏休み企画“縁日de遊ぼう”

地域の一大イベントと言えば夏祭り！でも、大勢の人が参加する所には行けない等の理由で、参加できない子ども達に「夏休みを楽しんでもらいたい！」と地域の方と学生がタッグを組み一日限定の縁日をつくりあげました！

参加する子ども達も見守る学生も地域の方も楽しそう！
「関わるみんなが楽しい！」と感じる事が一番大事！！

▶ VOお疲れ様会後、(集合写真)
地域の方も学生も「いい顔してます」



<事前のオリエンテーション>

●障がいの理解を深める講座

<当日の流れ例>

9:30 オリエンテーション
(再度、接し方や会場説明)
10:30 開始の挨拶
10:45 カレー作り
12:00 みんなdeお昼ご飯
13:30 縁日スタート
15:00 スイカ割り
15:50 終わりの挨拶
16:00 ボランティアお疲れ様会
16:30 解散

事例：オンラインを使った学生と団体との交流イベント

新型コロナウイルスの影響により例年のような活動が難しくなる中、オンラインを使った活動体験も始まっています。リアルな活動と同じことはできませんが、オンラインを使うことで普段は活動に参加しない学生が参加することができた、新たなボランティア層の獲得につながった、活動や団体についての啓発ができたなどの成果も上がっています。



▲学生がレポーターになって現地から中継しました



<当日の流れ例>

13:00 オンライン上に参加学生集合
(簡単なオリエン)
中継組は現地に到着
13:30 中継開始
趣旨や流れ説明
13:40 団体概要の説明
(団体より画面共有)
14:00 施設見学
14:15 質疑応答
14:30 交流タイム
14:50 集合写真、中継終了
15:00 オンライン上で学生の
クロージング、解散
現地で簡単な振り返り、解散



▲オンライン上も司会を立てて進行



▲集合写真はリアルとオンラインの両方で撮影

<ステップ5> プログラムの継続を支援する

「学生は4年間で卒業していなくなってしまうから ...」

まちと関わっているとこんな声をよく聞きます。果たして、本当にそうでしょうか？
大学生活は4年間というのはほとんどの学生に当てはまる事ですが、プログラムの継続・発展を考えると継続的に活動に関わる学生を増やす事は「担い手の確保」の面からも重要な要素だといえます。

《STEP ①》(単発) 活動が終わっても関わり続ける “きっかけ=声かけ / 誘う”

(ちょっと寂しいけど) 自分の役割は終わった。次の学生に頑張ってもらう！



例) ●本当に助かったよ！今度、(〇〇企画)の時は参加者として顔出してよ！
●本当にありがとう！凄い良かった！来年は時間があったら、サポーターとして関わってくれる？

point

☞ココが腕の見せ所！ 学生に負担なく継続できる提案をできるか
「企画の切れ目が縁の切れ目×」にならない「つながり」を創りましょう

《STEP ②》(単発) 活動後や卒業しても戻ってこれる “きっかけ=役割や場の提供”



卒業生が現役生のメンターとして関わる



社会人への門出式



ホームカミングデー



小倉さん
(社会人1年目)

活動に関わり続けたのは純粹な楽しさ！それに関わってくれる大人の魅力がすごい！
後輩が実施する企画や“まちかけ”のイベントにいつも声をかけて下さるので卒業してから地域側のメンバーとして後輩に関われるのもまた他にはない“魅力”です！

貴重な学生生活4年間の成長を共に活動できる・見守れるというのは特別な事だと感じます。
そんな多感な時期を共に過ごすわけですから、人生観や仕事観にも大きな影響があり、大人の責任というものを感じます。年齢に関係なく、素晴らしい仲間です。



六角橋自治連合会
森会長

第1回横浜アクションアワード【大賞】「まち×学生プロジェクト」より

コーディネーターの腕の見せ所

「活動の理解者を<増やす>」「想いを<伝える>」
活動を【継続】するという面においては、当日も大切ですがその後のフォロー（締め方）がとっても大事！

★企画のフォロー締め方（チェックリスト）

- ☐ 学生の動きや活動の参加者からの感謝やお礼を<目に見える形>で伝えている
- ☐ 学生がどんな気持ちで活動していたのか<目に見える形>で伝えている
- ☐ 地元紙やTVなど第3者のメディアを通じて客観的な情報を地域に発信・記録として残している



編集者より

みんなであーでもないこーでもないといひ合う時間が活動の醍醐味！この冊子がそんなきっかけとなれば幸いです。



ヘリぼーと (法政大学4年)
橋本 空

この冊子が世代を越えてつながるヒント。繋がっている所には新たな取組みに向けたアクセントになれば幸いです。



社会福祉法人若竹大寿会
横浜市六角橋地域ケアプラザ
原島隆行

若者と地域によるまちづくりは無限の可能性がります。この冊子が皆さんの活動のヒントになれば嬉しいです。



アクションポート横浜
高城芳之

<ヒアリングにご協力いただいた団体一覧>

NPO法人スマイルオブキッズ
障害者自立生活センターIL・NEXT
認定NPO法人びーのびーの
まち×学生プロジェクト
NPO法人オールさこんやま

Accent 若者をつなぎ まちを盛り上げるツボ

発行年月：2021年2月
発行者：NPO法人アクションポート横浜
執筆：橋本 空、原島隆行、高城芳之
デザイン：認定NPO法人びーのびーの



この冊子は公益財団法人ヤマト福祉財団の支援により作成しました。